

RSNA AWARD REPORT

CERTIFICATE OF MERIT

Peritumoral Area of Focal Liver Lesions;
Imaging-pathological Correlation and
Clinical Significance

福井大学 医学部 病態解析医学講座放射線医学領域 尾崎公美

はじめに

今回RSNAの教育展示にて思いがけずCertificate of Meritを受賞することができ、戸惑うと同時に大変光栄に思う。受賞した発表演題内容に関して簡単に報告する。

発表演題内容の紹介

肝内に生じる限局性結節状病変には悪性及び良性腫瘍、偽病変、炎症性病変を含め、多彩な病変が存在する。各々が特徴的な画像所見を呈し、特に肝特異性造影剤（EOB・プリモビスト）は肝限局性病変の診断に大きな躍進をもたらし、CT及びMRI所見によって概ね鑑別を絞ることが可能となってきた。このような状況の中、今回は肝内限局性病変に伴って生じる腫瘍辺縁部、すなわち「peritumoral area」の所見に着目した（図

1）。二重血行支配や肝小葉構造など、肝固有の血行動態や解剖を背景として肝腫瘍は腫瘍に隣接した実質にも多彩な所見が付随する。これらは結節の診断の一助となったり、予後予測や化学療法反応の画像バイオマーカーとなることがある。臨床的意義を確定するには、今後の症例蓄積が必要な所見も存在し、今後の更なる発展が期待できる分野でもあるが、現時点での知見を結節毎にoverviewした。

スライド作成にあたって

毎年RSNAで素晴らしいDigital Posterを閲覧し、感銘と刺激を受ける。自身は内容の「断捨離」が苦手で、重要項目を絞りきれず、ついつい文字が小さくなり、多くの画像を盛り込み、若干busyなスライドになりがちである。欠点がわかっているのだが、中々克服できずに提出の締切を迎えることが多い。若手への「教育」が目的の1つである展示であり、自分の伝えたいことを伝えやすくするスキルを更に磨けたらと思っている。

Peritumoral Area of Focal Liver Lesions;
Imaging-pathological Correlation and Clinical SignificanceKumi Ozaki¹, Shohei Higuchi², Tetsuya Tsujikawa¹, Toshifumi Gabata³Department of Radiology¹ and Pathology², Faculty of Medical Sciences, University of Fukui
Department of Radiology³, Kanazawa University Graduate School of Medical Science

図1 発表スライドのトップページ